



学校運営協議会（報告） 「個別最適な学び」を考える

学校運営協議会は、2月19日（月）に9回目が開催され、クラブ見学や学校の状況報告が行われました。校長から教育活動の報告があり、保護者アンケート（回答率58.2%）のまとめや、**学校評価報告書**についての説明がなされました。学校評価報告書は、学校教育法および学校教育法施行規則の規定により、**学校運営や教育活動について自らの取り組みを評価し、保護者や地域にその情報を公開・説明するためのものです（右のQRコードより閲覧可能）。**

3月11日（月）には、10回目の学校運営協議会が開催され、校長から令和6年度学校運営基本方針案が示され、その内容に関して委員による活発な意見交換が行われました。その中で、学習指導面において、主体的な学びづくりや学びの個別最適化に適した**「単元内自由進度学習」**という学習形態のことが話題となりました。どうしても近代学校の現場では一斉授業が主流ですが、「単元内自由進度学習」は、中央教育審議会答申第228号『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（右のQRコードより閲覧可能）で示された**「個別最適な学び」**を実現する手段として、注目されています。どのような学習形態なのか皆さんにも知りたいので調べてみました。



令和5年度
学校評価報告書



中教審答申
第228号

子どもを自立した学習者に

【今日の学校教育が直面している課題】

子どもたちの多様化

情報化への対応の遅れ

子どもの学習意欲の低下

少子化・人口減少の影響

教師の長時間労働

感染症への対応

正解主義や同調
圧力への偏りから
の脱却



一人ひとりの子どもを
主語にする学校
教育の実現

【学校の教育方法も変化が必要】

視点①

教科の縦割り分科による書物中心の暗記主義ではなく、子どもたちが実社会・実生活に関わる身近で切実な問題を解決しようとする中で価値ある学びを実現する。



総合的な学習の時間、社会に開かれた教育課程、教科等横断的なカリキュラム・マネジメント、探求など

視点②

一斉画一的、没個性的なあり方ではなく、一人ひとりの子どもの興味・関心や必要感に根差した個別的で個性的な学習の機会を保障する。



個に応じた指導、個別最適化された学びなど

【目指す学校教育（子どもの学び）】



- 個別最適な学び
- 協働的な学び
- 主体的・対話的な学び
- ICTの活用

指導の個別化

一定の目標を全ての子どもが達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める

学習の個性化

異なる目標に向けて、学習を深め、広げる

単元内自由進度学習とは

学習者が自己調整しながら学習を進めていく方法です。教材やテーマは決まっていますが、学習者は自分の興味や理解度に応じて進めることができます。個々のニーズや学習スタイルに合わせて、自律性や責任感を育てることができます。教師はサポート役として、必要なときに支援やアドバイスを提供しますが、学習者が自ら考え、行動することを重視します。ICTの活用により、学習者が自らのペースで学べる環境が普及しつつあります。個々のニーズやスキルに合わせたカスタマイズされた学習の一環として、広く認知されています。



中央教育審議会第10期初等中等教育文科会長 荒瀬 克己「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
https://www.nits.go.jp/materials/intramural/files/094_001.pdf
上智大学 奈須 正裕 「個別最適化された学びについて」
https://www.mext.go.jp/content/20200727-mxt_kyoiku01-000008845_2.pdf

興味のある方はぜひ参考資料をご覧ください。



「宿題」を問う

宿題は、何のためにあるのか？

皆さんにぜひ考えてみていただきたいことがあります。それは、「宿題」です。「宿題しなさい！」子どもに家庭学習を無理やりさせようとする、習慣が進むより先に「宿題がしんどい、勉強が嫌い…」になってしまい、結果的に子どもを自立した学習者にする、ことから遠ざけてしまいます。宿題について考えてみたいと思います。

宿題の問題点を整理

- 宿題が多すぎると、子どもたちのストレスや疲労が増え、学習意欲や興味が低下する可能性があります。【**過剰な負担**】
- 家庭の環境やサポートの差により、宿題の取り組み方や成果に不均等が生じることがあります。【**家庭環境の格差**】
- 子どもたちが学校や習い事などで忙しい場合、宿題を適切にこなす時間が確保できず、ストレスや睡眠不足につながる可能性があります。【**時間管理の困難さ**】
- 宿題が単調な繰り返しやこなすだけ作業になってしまうと、学習の効果が限定的になり、力が身につかないことがあります。【**目的の喪失**】
- 宿題に多くの時間を費やすことで、家族との円満なコミュニケーションや好きなことにあてる時間が削られる場合があります、家庭生活のバランスが崩れることが懸念されます。【**安定した家庭生活の乱れ**】 など



先生にとっても、宿題の点検やフィードバックには労力と時間を要します。授業の合間も休む暇がない中で、宿題の提出状況や理解度に応じて、生徒の学習目標に合わせた適切な教材や問題を選定することは、簡単なことではありません。教育の働き方改革の視点からも宿題のあり方を議論していく必要があります。

なぜ宿題は出るのか？

小学校学習指導要領「総則」には「家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮すること。(第1章第1の2)」と記載されています。これを詳しく説明した小学校学習指導要領解説【総則編】では、家庭との連携の重要性について、次のように記載しています。

「小学校教育の早い段階で学習習慣を確立することは、その後の生涯にわたる学習に影響する極めて重要な課題であることから、家庭との連携を図りながら、宿題や予習・復習など家庭での学習課題を適切に課したり、発達の段階に応じた学習計画の立て方や学び方を促したりするなど家庭学習も視野に入れた指導を行う必要がある。(p.24)」

つまり、家庭学習を視野に入れた指導の一環として宿題が出ています。大事なことは、学習習慣を確立するための家庭学習であり、宿題をこなすことではありません。本来的には、学校に課される宿題で子どもの学習習慣をかたどるのではなく、もっとその子どもに合った学びや力を伸ばす家庭学習を保護者が自ら考えていく必要があるということです。

「homework (宿題)」→「homelearning (家庭学習)」

大阪市港区の「家庭学習の手引き」には、学力に関係があるとわかっている生活・学習習慣のエビデンス(根拠、調査研究結果)を取り上げ、そのような生活・学習習慣づくりの意義とそのノウハウがわかりやすく解説されています(右の QR コードより閲覧可能)。子どもにとっての家庭学習の習慣づくりの大切さを理解するとともに、より良い宿題との向き合い方を考えるきっかけになると思われますのでぜひご覧ください。学習習慣を身に着けるためには、勉強だけでなく、睡眠や食事、コミュニケーションなどが大切であることが学べます。



大阪市港区
家庭学習の手引き

(参考) 大阪市港区役所「家庭学習の手引き」<https://www.city.osaka.lg.jp/minato/page/0000595850.html>

※令和5年度の「ごきげんな学校だより」は本号で終了です。次年度も上ノ原小学校学校運営協議会に関するホットなテーマを取り上げて行きたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

